

## 第 2 2 回蒲郡市地域公共交通会議 議事録

- |   |     |                               |                   |
|---|-----|-------------------------------|-------------------|
| 1 | 日時  | 平成30年6月20日(水) 午後2時30分～午後4時15分 |                   |
| 2 | 場所  | 蒲郡市役所 本館 303会議室               |                   |
| 3 | 出席者 | 委員 愛知工科大学機械システム工学科教授          | 村上新               |
|   |     | 委員 名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科教授      | 松本幸正              |
|   |     | 委員 愛知運輸支局                     | 杉本忠久<br>(代理 二輪昭宏) |
|   |     | 委員 愛知県交通対策課                   | 榊原仁<br>(代理 児玉朋孝)  |
|   |     | 委員 総代連合会会長                    | 細井政雄              |
|   |     | 委員 総代連合会副会長                   | 遠山憲章              |
|   |     | 委員 総代連合会副会長                   | 尾崎英行              |
|   |     | 委員 形原地区公共交通協議会                | 壁谷權一朗             |
|   |     | 委員 蒲郡市身体障害者福祉協会               | 金沢孝一              |
|   |     | 委員 蒲郡市老人クラブ連合会                | 松本久乃              |
|   |     | 委員 蒲郡市社会福祉協議会                 | 金原久雄              |
|   |     | 委員 蒲郡市小中学校PTA連絡協議会            | 菰田寛子              |
|   |     | 委員 蒲郡商工会議所                    | 小池高弘<br>(代理 井澤康彦) |
|   |     | 委員 蒲郡市観光協会                    | 杉山和弘<br>(代理 鈴木和範) |
|   |     | 委員 名鉄バス東部株式会社                 | 近藤博之              |
|   |     | 委員 豊鉄タクシー株式会社                 | 浅野丈夫              |
|   |     | 委員 株式会社かね一自動車                 | 天野一美              |
|   |     | 委員 名古屋鉄道株式会社                  | 河合貴夫 (欠席)         |
|   |     | 委員 公益社団法人愛知県バス協会              | 小林裕之              |
|   |     | 委員 愛知県タクシー協会                  | 山田透               |
|   |     | 委員 愛知県交通運輸産業労働組合協議会           | 白井淳               |
|   |     | 委員 愛知県蒲郡警察署                   | 竹内敬悟<br>(代理 山本英典) |
|   |     | 委員 東三河建設事務所                   | 稲垣秀高              |
|   |     | 委員 蒲郡市長                       | 稲葉正吉              |
|   |     | 委員 蒲郡市総務部長                    | 壁谷勇司              |
|   |     | 委員 蒲郡市企画部長                    | 飯島伸幸              |
|   |     | 委員 蒲郡市市民福祉部長                  | 竹内仁人              |
|   |     | 委員 蒲郡市建設部長                    | 鈴木伸尚              |
|   |     | 委員 蒲郡市産業環境部長                  | 贄年宏               |

(代理 小田芳弘)

委員	蒲郡市都市開発部長	鈴木成人
事務局	蒲郡市交通防犯課長	池田高啓
	蒲郡市交通防犯課長補佐	松井英樹
	蒲郡市交通防犯課主事	石川雄策
	蒲郡市交通防犯課主事	井本博子
	蒲郡市交通防犯課主事	成瀬陽次
	地域公共交通網形成計画推進事業受託事業者	三菱UFJリサーチ&コンサル
	ティング株式会社 1名	

4 傍聴人 10人

5 議題

- (1) あいさつ
- (2) 委員自己紹介及び役員の指名について

6 協議事項

- (1) 平成29年度蒲郡市地域公共交通会議決算について・・・【資料1】
- (2) 平成31年度生活交通確保維持改善計画について・・・【資料2】

7 報告事項

- (1) 蒲郡市地域公共交通網形成計画事業進捗について・・・【資料3】
- (2) 平成29年度公共交通の状況について・・・【資料4】
- (3) 形原地区支線バス停留所標識広告掲載要綱について・・・【資料5】

8 その他

- (1) 夏休み小学生50円バスの実施について・・・【資料6】

9 議事内容

(1) 開会

- ・ 出席委員が29名であり、定足数に達しているため、蒲郡市地域公共交通会議設置要綱第7条第2項の規定により会議が成立すること、本日の会議が公開となっており傍聴人がいること及び地域公共交通網計画推進事業受託事業者として三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社に参加していただいていることが事務局より報告された。

(2) 議題

ア あいさつ

蒲郡市長、稲葉正吉より、本日は協議事項2件、報告事項3件を予定している。蒲郡市地域公共交通網形成計画において、平成30年度は計画の後期に入り、昨年度の評価・見直しを受け、事業を実施する年度である。公共交通に関わっていただいている皆さんが一同に会して話し合っただけの場所は非常に貴重であり、委員の皆様方には忌憚のないご意見とご協力を賜りたいとのあいさつがあった。

イ 委員紹介及び役員の指名について

- ・ 委員の自己紹介が行われた。

- ・ 蒲郡市地域公共交通会議設置要綱第5条第2項により、蒲郡市長が会長に就任した。
- ・ 会長より副会長として壁谷勇司委員、座長に村上新委員、監事に細井政雄委員と飯島伸幸委員を指名したことの報告。また、議長については蒲郡市地域公共交通会議設置要綱第6条第3項に基づき座長である村上委員を指名し、議事を進行。
- ・ 議長より本日の議事録署名人として2名の委員が指名された。

### (3) 協議事項

#### ア 平成29年度蒲郡市地域公共交通会議決算について

- ・ 事務局より資料1に基づく説明と監事代表1名から監査報告が行われ、全会一致で承認された。

[質 疑]

なし

#### イ 平成31年度生活交通確保維持改善計画について

- ・ 事務局より資料2および当日配布の地域公共交通確保維持改善事業の二次評価結果に基づく説明が行われ、指摘部分の修正を事務局に一任するとし、承認された。

[質 疑]

(委 員)

- ・ フィーダー系統の意味を教えて欲しい。また、形原地区での運行が始まって3年とのことだが、どうして形原だったのか教えてほしい。

(事務局)

- ・ フィーダーとは、支線と同じ。幹線となる鉄道、幹となる路線バスにつながる、枝線に該当し、地域内を移動する路線のことを指す。
- ・ 形原地区については、地元でバスについて廃線になったところで、その対応について自主的に議論が進められており、市で交通計画の検討を始めた際に、事業構築にあたって一緒に議論を始めることになった。

(委 員)

- ・ コミュニティバスについては、当時の総務部長を通して、平成24年に、周辺地域の動きについて紹介があった。当時市より説明を受け、廃線になった地域住民から不便であり議論をしたいとの声があり、総代として市長宛てに要望書を提出して議論をお願いした。
- ・ 平成26年の計画策定時に、地域協議組織が設置された地域で協議をする計画内容に手を挙げて、正式にコミュニティバスを走らせたいという要望書を再度提出し、協議を開始した。以降、ほぼ毎月会議を実施し、事業計画を策定して、平成27年から運行を開始した。

(委 員)

- ・ コミュニティバスを走らせて欲しいという地域の声があった。ユトリーナ、商業施設などへ行きたいと。市議会議員他、地域の住民の皆さんから走らせようという議論が始まった。

- ・ 3年間運行をさせていただいた。主に高齢者の方に利用をしていただいた。
- ・ コミュニティバスを走らせるのに、形原地区は適した地域だと思う。

(委員)

- ・ 地域主導の事業で、理想的な推進だと思う。
- ・ 資料について、1の目的・必要性について、上位計画に書かれているものが示されており、改善計画の目的・必要性に限った記載と、目的はフィーダ一路線について確保維持の点がわかるように整理していただきたい。

(事務局)

- ・ 書き方については、ご指導をうけ、対応していきたい。

(委員)

- ・ 確かにフィーダーという言葉はわかりにくい、指摘していただきありがたい。国の方も分かりやすい言葉にしないといけないだろう。
- ・ 国が支線に補助するのは幹線があるから。幹線は広域の移動を支えるもの。国も重要として位置づけている。幹線につながる支線を補助している。幹線の計画・位置づけを紹介いただきたい。
- ・ 2ページ目の3. 目標を達成するために行う事業及びその実施主体について。目標は住民の数が減っている中で年間50人ずつ増やす設定となっている。前提として対象人口は1%減少していることも記載してほしい。その中で、事業収支の位置づけや、新たな支線バスの導入検討が目標達成にどのようにつながるのか。
- ・ 例えば広告掲載は、知ってもらうことで新たな利用につなげることになるし、新たな支線バスの導入は、他地域でも事業を通して知って頂いて、市全体で公共交通事業を進めることにつながる。そうした整理をしていただけたらどうか。

(事務局)

- ・ 事業の記載についてはご指摘の通り。表現について支局と調整して整理していく。
- ・ 幹線の計画について、蒲郡市における幹線系統は鉄道のJRと名鉄がある。名鉄は西尾市と一緒に、にしがま線げんき戦略を策定し、利用促進・誘客推進を進めている。その鉄道にフィーダーを接続している。

(委員)

- ・ 本来なら、幹線系統は路線バスを指すが、蒲郡市内の名鉄バスは幹線系統ではない。西尾・蒲郡線につなげ、利用促進を図ることが念頭にあることが確認できればよいと思う。

(委員)

- ・ フィーダー系統として国が支援するのは、幹線につながるものを対象に支援する。
- ・ 一般的には、幹線系統は路線バスにつながるものだが、蒲郡市の場合は、交通不便地域に指定され、鉄道につなげることで幹線系統に接続した支線となっている。将来的に、幹線系統がなくなるとその支線の補助もなくなる。鉄道がなくなることは考えにくいですが、幹線系統についても利用促進に努めて頂くようお願いしたい。

#### (4) 報告事項

##### ア 蒲郡市地域公共交通網形成計画事業進捗について

- ・ 事務局より資料3に基づいて報告が行われた。

〔質 疑〕

(委 員)

- ・ 交通網形成計画を策定しただけでなく、毎年チェックしている。こうした事業進捗管理は、大変良いこと。目標値の中間評価はどうだっただろうか。

(事務局)

- ・ 網形成計画内で、利用者数について既存の公共交通である路線バスと支線バスについては「人口変動率対比でプラスを目指す」となっている。達成している。
- ・ 名鉄西尾・蒲郡線の利用促進事業については、交通網形成計画には位置付けておらず、次回の計画更新時に組合せを検討していきたい。

(委 員)

- ・ 交通網形成計画に掲載している事業は、報告されているとおり順調だということ。特に見直しなく、進捗してよいと理解している。

##### イ 平成29年度公共交通の状況について

- ・ 事務局より資料4に基づいて報告と出席委員の事業者より一言ずつ昨年度の利用状況や今後の利用促進についての展望等の発言が行われた。

(委 員)

- ・ ご利用ありがとうございます。利用実績について、年間20万人、1日500人強の利用がされている。業務効率化のため、名鉄バスグループの名鉄バス、名鉄バス中部、名鉄バス東部は、7月に統合する認可申請をしている。
- ・ 統合によりサービスが少し変わり、7月からICカードが利用できるようになる。事業説明のチラシは準備している。定期券はまだそのまま継続。トイカ、マナカ等を利用できるようになり、利便性があがる。一層の利用をお願いしたい。

(委 員)

- ・ 高齢者割引タクシーチケット事業を対応している。また4月からあじさいくるりんバスの運行を対応している。
- ・ 高齢者割引タクシーチケット事業は、29年度は63,454枚の内、52%は豊鉄タクシーを使っている。金額にすると3,840万円ほどの利用でその1割の384万円を当社が負担している。ばらつきがあるが、1枚の利用金額の平均は、29年度は1,170円だった。約2.8kmの距離の利用になり、概ね駅から市民病院ぐらいの距離だと思う。
- ・ 形原地区支線バスについて、4月は467名の利用があった。1便当たり6.5名の利用。5月は495名、1便当たり5.9人になっている。前年並み以上の利用。
- ・ 停留所別では、Aコープ、かんだ整形外科、ユトリーナ、形原温泉、あおば内科の利用が多い。6月のあじさい祭りに対応して、予備車を導入している。渋滞による遅れがあるので、土曜には予備車を導入して、定時運行できるようにしている。6月の

9日、16日は遅延があり、予備車両の運行があった。

- ・ 6月7日の形原会議に参加して、意見交換した。
- ・ 今後も安全運行、定時運行をしていきたい。

(委員)

- ・ 補足したい。6ページの表について29年度は年間4,983人、1便当たり5.4人となっている。問題は中身。29年度の右回りは、129人、便当たり9.2人以上。バスの定員は10人だが運転手がいて、助手席は使いづらいため、実質的に8人乗車。現状は、9.2人の利用。1周の中で、乗ったり降ったりしているのが、定員に近い状況となっている。飽和状況でほぼ満杯。
- ・ 我々としても乗車人数を増やすことは限界になっており、どうするかを考えていけないといけない。積み残しは、事業者でカバーしていただいている。
- ・ 今後の目標の50人の増加。現実的にはその程度だと思う。高齢者の免許返納を進めたい。市からチラシを配布し、返納者の利用も増えてきている。
- ・ 利用状況については、かんだ整形の利用が多い。その隣に、新たな医療施設ができると聞いており、更なる利用者増が見込まれる。かんだ整形に行った後、Aコープで買い物をして帰る、という行動パターンができています。Aコープの利用は前年度から330人ほど増加し、1,000人を超えた。
- ・ あじさい祭りの予備車の対応は本当にありがたい。40分くらい遅れて運行されることもあったので、予備車の導入により遅延がなく運行できて助かっている。迂回路に一般車が流入し、運転手がすれ違いに苦労していた。従前の事業者が始めたことを受け継いでいただき助かる。運転手の評判も非常によい。

(委員)

- ・ 高齢者の方に利用頂いている。交通安全で事業継続いただきたい。

(委員)

- ・ 小学生の利用がわずかではあるが、どんな利用がされているか分析しているか。小学生向けの利用促進、乗り方教室などを実施しているか。

(事務局)

- ・ 小学生について、家族と一緒にAコープなどの買い物利用がされていると推測される。
- ・ 利用促進については、地区協議会とともに保育園児を対象に、ぬりえ大会や乗り方教室を行った。引き続き実施していく予定。

(委員)

- ・ 運行状況を確認して対応を考えることが重要。増えすぎて困っている状況で、放っておけない。具体的な検討を開始しているか。

(事務局)

- ・ 4月の運行後、乗りこぼしはまだ聞いていない。乗降の多い停留所は決まっており、住民の皆さんのサイクルが合っている状態だと考えられる。これからも増え続け、支障が生じていくのであれば、運行日数を増やす、便数を増やすなど地区の方とともに検討を考えたい。

(委員)

- ・ 問題が起きる前に、検討を開始し対策を行ってほしい。

(委員)

- ・ 正規車両と予備車両がいっぱいになった時にどうするかも考えている。西浦駅にタクシーを1台配備した。通常の運行においては乗りこぼしはないが、万一あった場合は配備したタクシーを向かわせる予定。

#### ウ 形原地区支線バス停留所標識広告掲載要綱について

[質疑]

なし

#### (5) その他

##### ア 夏休み小学生50円バスの実施について

- ・ 事務局より資料6に基づいて説明、別添資料の指針の改定版の説明および名鉄西尾・蒲郡線利用促進大会についての案内が行われた。

##### イ その他

(委員)

- ・ 今年度東部地区でコミュニティバスを検討する。
- ・ 形原地区の運賃収入が40数百万円で微々たるもの。あとは補助金。形原と同様のレベルでよいのか。形原を参考に次なるステップはどうすべきか。
- ・ 高齢者の運転免許は問題だと思う。税金をつかった対応となるため、それ以外の方法がないか。近隣で参考となる好事例はないか。

(事務局)

- ・ 事業収支について、コミュニティバスで採算をとるのは難しい。形原地区は10%ほど。市では、名鉄西尾・蒲郡線、名鉄バス東部の路線バス、形原地区支線バス、高齢者タクシー事業にあわせて1億数千万円を投入している。
- ・ 東部地区は、形原地区を参考に事業構築し、収支率の検討も行う。採算性が合うかどうかはまた次の課題。

(委員)

- ・ 先進事例について、コミュニティバスの事業化は難しい。収支率を見ると概ね10~30%。一宮市や春日井市は比較的収支率が高い。
- ・ 地域の皆さんがいかに考えて、盛り上げていくのが大事。行政側のモチベーションにもつながる。みなさんが一緒に考えることができているのが良いモデルで、利用者増にもつながる。形原地区は県内でも良い事例。

(事務局)

- ・ 免許返納者は増えている。コミュニティバスとタクシー両方の支援を行っている。うまく活用してもらいたい。バスで病院に行った後、帰りのバスがない場合や買い物で荷物がある場合などはタクシーで帰るなど工夫した利用方法を紹介していきたい。

(委員)

- ・ 収支率を高めるには、料金を変えればよい。形原地区では、料金について協議し、結果的に100円にした。200円にするか悩んだが、利用者の立場で考えた結果。東部地区では、住民が納得すれば200円にすればよい。
- ・ コミュニティバスは、地域が育てるべきものだと理解している。形原地区では、長寿会や民生委員などとも意見交換を定期的に行い、議論しながら進めている。三重県紀北町、半田市、西尾市などが視察に来られている。地域の皆さんが親身になって、育てようという意気込みがないと成功しないと思う。

(委員)

- ・ 協会のホームページで、全国ハイヤータクシー連合会のサイトにリンクしているが、その中で、乗合タクシー事例集を掲載している。その中に、形原地区の取り組みも掲載している。全国で約150の事例。定員10名以下のタクシー車両を使った乗合型のコミュニティバス・タクシーの事例をピックアップして載せている。いろんなパターンがあり、毎年情報更新も行っている。こうした事例も参考になるのではないかと思う。

(委員)

- ・ 青色のチラシを配布した。愛知県ではエコモビ県民運動を行っている。平成24年度から推進表彰もしている。29年度に、市民まるごと赤い電車応援団も表彰した。是非応募をお願いしたい。

(事務局)

- ・ 次回の地域公共交通会議は12月ごろ予定との連絡を行い会議は終了した。